



カンボジア便り

幼稚園の運営と近況について

この幼稚園は、小学校入学後の落ちこぼれ防止と、子どもたちの両親の働く時間を増やす目的で、当会が建設費を負担して昨年10月に開設したものです。

幼稚園は、隣接したルセイサン小学校の附属施設として、小学校校長の管理下にあります。先生の給与及び運営経費は、以前にもご報告した通り、プノンペン市教育・青年・スポーツ局が負担します。運営経費については、生徒一人について年間幾らと決まっています。

小学校の場合、1.75ドル/人・年なのですが、幼稚園、特にここのような新設の幼稚園の場合幾らになるのかはまだはっきりしていません。

クラスは3歳児と4・5歳児の二つがあります。

3歳児のクラスでは、年長者に敬意を払うといった社会道徳、手を洗うといった衛生観念、昔からある童謡などを習い、果物や動物の簡単なジグソウパズルで遊びます。

年長組も同じことをする一方、ジグソウパズルを使って文字や数字を勉強します。



～目次～	
カンボジア便り	
幼稚園の運営と近況	1
ルセイサン小学校生徒数激減	2
自転車が欲しい	2
子どもたちは大はしゃぎ	3
朝から晩まで食べまくる	4
アジアの友だちをプレゼント!	5
スタッフ紹介	5
事務連絡	6

現在登録生徒数は37名ですが、実際に通っている子どもは20名程度と余り多くありません。

生徒数が少ない原因については、当会の現地窓口であるリティさんが、先生方やお寺の住職さんと一緒に調査中ですが、家から遠く、働きに行く親たちが送ってこられないためかとも想像されます。

緊急事態・ルセイサン小学校の生徒数が大幅に減ってしまいました

年明けにリティさんから緊急のメールが入り、昨年10月の新学期以降ルセイサン小学校の生徒数が約100名減り、その大半が、私たちが6月まで経営していた識字学校、アジア未来学校の出身者だとのことでした。

以下は、先生方がとりあえず、いま学校に来ている子どもたちに理由を尋ねた結果です。

1. 親が働きに出てしまい、弟妹の面倒を見るため学校に行かれない。
2. 子どもたち自身が家計のため、ごみ捨て場や道路で物拾いをしている。
3. 同じく家計のために魚取りをしている。
4. 親が借金のため夜逃げをし、子どもも一緒にいなくなる。

リティさんは先生方と協力し、学校に来ていない子どもの人数を調べると共に、この子どもたち及びその両親と面談し、何が支援出来るのかを検討する予定です。

これは推測ですが、世界的な不況が一番弱い人たちを直撃しているというのがこの問題の本質と思われ、対応はかなり難しいと予測されます。

日本でも1月の理事会でスタッフが色々相談しましたが、現地で状況をしっかり把握して何が出来るかを提案してもらい、これを全力で支援することが我々の役目だという結論になりました。

私たちは、アジア未来学校の修了生がルセイサン小学校に進学するようになった時、止めてしまう子どもが多いのではないかと大変心配しました。ところが、それが杞憂に終わりとても嬉しく思い、活動の一番の成果だと考えていただけに、この事態はひとしお残念で、何とかしたいと考えています。

本件に関し、支援者の皆さんにも特別にお願いすることもあろうかと存じます。その節はご協力を宜しくお願い致します。

自転車が欲しい・中学への通学

アジア未来学校出身の女の子がルセイサン小学校を卒業して、5kmほど離れた中学校に入学したのですが、最近通うのを止め小学校の6年に再入学したいと言って来ました。歩いて通うのは難しく、でも学校に行っていないと習ったことを忘れてしまうというのがその理由です。

これは一例ですが、小学校のあるプラッカー村の子どもも含め、他にも同じような子どもが何人かいると思われれます。

そこで希望者に自転車を支給あるいは貸与する支援を検討しています。問題は、自転車をどう管理するかで、現在その方法をリティさん、先生方、住職さんに検討して頂いており、適当な仕組みが決まったら実施する予定です。

この話はアジア未来学校開校の頃にも出ていましたが、管理方法で行き詰まり実施を見送ったことがあります。

また、シニアスタッフの中には、「これくらいの距離なら歩けば済む」との意見もありますが、現在のカンボジアではそうではないようです。(大澤)

子どもたちは大はしゃぎ

—幼稚園を訪ねて—

渡部友理恵

幼稚園に足を踏み入ると、子どもたちの元気な笑い声と教室を走り回る足音が私を迎えてくれました。

昨年11月、私は同年10月に開園した幼稚園を訪れるためにカンボジアの首都、プノンペンに向かいました。2年半前に訪れた時とほとんど変わらない街並に懐かしさを覚えながら、現地スタッフのリティさんと一緒に幼稚園のあるプッカー村へと車を走

らせます。村は市の郊外にあり、中心から車で約20分ほど。途中、以前はなかった場所に信号機が設置されていたり、未整備だった道路がアスファルトになっ

ていたり、やはり変化がありました。

到着した時はちょうど幼稚園の柵を作っている真っ最中！この柵は牛などの動物が園内に入ってくるのを防ぐためと、屋外に設置する遊具が盗まれるのを防ぐためだそうです。高校生くらいの2人の青年が、高さを整えながら丁寧に作っていました。私が訪問した日は男の子6名、女の子9名の計15名が幼稚園に来ていました。子どもは3歳から6歳くらいで、中には兄弟で来ている子もあり、上の写真で男の子を抱き上げているのはかれのお兄さんのようです。教室の中で子どもたちは大はしゃぎ！男の子も女の子も一緒になって大きな声で笑ったり走ったり、先生はとても忙しそうでした。先生は少しの日

本語と英語が話せるようで、私にあいさつをしてくださいました。子どもたちはよく先生の周りにやって来ては話をしたりいたずらをしたり！先生をととても慕っているようでした。小学校が隣にあるので、子どもたちはたまに図書館へ遊びに行くようです。かれらはまだ字を読むことは出来ないのですが、本に描かれている絵を見るのがとても楽しそうでした。

子どもたちが幼稚園に通うことで学校に行く習慣が身につく、小学校も勉強も好きになっていくといいですね。



朝から晩まで食べまくる

—ベトナムの田舎のお正月—

渡部友理恵

今年の1月中旬から約一ヶ月、私はある企業で勉強させてもらうために、カンボジアの隣国、ベトナムのホーチミン市に行ってきた。ベトナムは旧正月の準備の真っ最中！街の中は日本の師走のような雰囲気でした。ベトナムの旧正月の様子を少しご紹介したいと思います。

1月25日は旧暦の大晦日。正月を目前にして、ホーチミン市の中心部は色彩豊かなイルミネーションで彩られました。カウントダウンと同時に花火が上がり、街は見物人とバイクで埋め尽くされます。しかし、ホーチミン市は商業都市のため、多くの人びとは田舎に帰るのだそうです。年末年始、多くの店はシャッターを閉じ、街は普段の喧噪を忘れさせます。ということで、私も元旦から友人の田舎のあるメコン川流域へ行くことにしました！バイクで走ること4時間半、ココナツの木が生い茂るメコン川流域の街へ到着。友人曰く、田舎は歩けば親戚に当たるというほど右も左も親戚だらけ！みんなホーチミンからバイクを使って田舎に帰るのですね。ベトナムでは、昼ご飯に家族や親戚が集まり一緒に過ごすようです。おそらく夜は早く寝てしまうからでしょう。それで、大人は昼間から沢山ビールを飲みます。ビールに氷を入れて飲むのが一般的で「モッハイバーヨー！（1,2,3,乾杯！）」とグラスを持つたびに乾杯をします。そして、ベトナム人は（正月だからか）朝から晩まで本当によく食べます。私が食べている時もどんどんお皿におかずを足してくれ、食後はフルーツやお菓子を食べました。それでもベトナム人女性はとても細いから不思議！そして、ベトナムにもお年玉がありました。私もお年玉をもらってしまいました！



自然と近代的な便利さを調和させた生活、ベトナムの田舎はそんな感じでした。温かいシャワーやきれいなトイレはないし、隣で遊んでいたニワトリが夜には食卓に上がります。一方で、バイクがないとどこにも行けないし、携帯電話は誰もが持っている必需品。街にはカラオケもあります。便利過ぎず、完璧過ぎないところが、どこか温かみを感じさせるベトナムという国の雰囲気、人々の持つ空気なのかもしれません。私がカンボジアやベトナムに魅力を感じるのとはそんなところなのだと思います。

ベトナムの女子の子たちと（左端が筆者）

アジアの友だちをプレゼント！

—第7回ビビンの会—

日韓、アジアの友だちの輪を広げることを目的としたビビンの会は、今回、第7回を迎えました。12月20日、季節に合わせた特別企画として合計54人(スタッフ含む)でクリスマスパーティの幕開けです！おかげさまで、お客様から大変ご満足いただけたようでした。今回の目玉はプレゼント交換です。100円ショップ限定で、それぞれお客様にお持ちいただいたものを音楽に合わせてテーブルごとにまわしていきます。音楽が止まったところで持っているプレゼントをもらうというルール。交換後、各テーブルを見て回ると中には面白いものがあり(たとえば袋に入った河童の手！)、お客様の会話も弾んだようでした。このほかに、もちろんビビンの会ではアジアの友達をもれなくプレゼントです。昼のパーティで知り合った友だちと夜まで仲良くおしゃべりしていました。今回、嬉しいことに、お客様からお礼のメールや電話をいただき「またぜひ来たい」との感想をいただけることもありました。次回は4月。もっとグレードアップした会を提供したいです。(浅野)

スタッフ紹介

李剛彬(イガンビン) 専門学校生

はじめまして。わたしは2006年4月に日本へ参りまして、3年弱、滞在しております。現在日・韓通訳翻訳関係の専門学校に通いながら就職活動も頑張っています。将来は日本と韓国、両国の発展に役に立つ仕事をしたいと思います。

日韓アジア基金との出会いの始まりは、たまたまインターネットで見つけた日・韓交流会(ビビンの会)に参加したことです。最初はただ日本人の友だちが欲しいだけでした。留学生の殆どが思うことですが、日本にいるのに日本人の友だちがいない！友だちが欲しい！私もそう思っていた1人でした。ビビンの会はとても素敵でした。しっかりしたプログラムや適切なスタッフの対応、でも何より印象的だったのは日韓アジア基金の理念でした。日本と韓国の両国の人が力を合わせて恵まれない他の国のために頑張る。その話を聞いた瞬間、なんて素敵な考え方なんだと私は思いました。そして、こんな素敵な方々と是非一緒に活動したいと思ったのです。

スタッフになってからのこの1年を振り返ってみると、いろいろなことを学んだ気がします。定例ミーティングで見せていただいた自分も知らなかった韓国民主化闘争のビデオや日比谷公園で行われた国際フェスタ、ABK秋祭り、日韓アジア基金を知るきっかけとなったビビンの会などの様々なイベント、どれもかけがえのない貴重な経験でした。このような貴重な経験をさせてくださった皆さんに心より感謝します。これからも自分にできることがあればもっと頑張りたいと思いますので今後ともよろしくお願いします。(原文：日本語)



年賀状書きをボランティアとスタッフで行いました

12月28日に、アジア文化会館のロビーにてスタッフ7名、ボランティア9名で年賀状の宛名書きを行いました。昨年、初めて会員や寄付者の皆様に年賀状を送りご好評を頂いたので、今年もぜひ実施しようということになり、今回はボランティアの方を募集しました。

年末の忙しい時期にも関わらず、たくさんの方にご応募頂き、残念ながら応募が多すぎてお断りする事態になりました。私たちの活動に共感して下さる方がいかに多いかということを実感し、今後の活動にもより一生懸命取り組まなければならない、良いきっかけになったと思います。

ご参加頂きましたボランティアの皆さん、年末のお忙しい中本当にありがとうございました。(矢崎)

フリーマーケット商品送付停止のお願い

現在商品の置き場所の関係で、フリーマーケットへの出店を取り止めております。過去のご協力に御礼申し上げますと共に、誠に勝手ではございますが、商品の送付はなさないようお願い致します。

08年10月16日～09年1月15日に会費・ご寄付を下さった方

(敬称略・五十音順)

縣 勇兵	大澤 龍	チラタ会	堀内 和子	森 健造	湯田 朋子
油谷 友加	小川 裕美	佃 吉一	堀川 清	矢崎 芽生	吉崎 秀一
五十嵐 安雄	小林 賢二	中川 敦司	堀場 秀亨	柳田 文子	李 香
岩見 豊子	鈴木 節子	中田 邦雄	松田 明美	山口 忠正	若宮 英生
内田 雄之	田村 敏彦	平田 典子	満井 啓二	山越 栄子	若宮 康夫
榎本 亮三郎	丹下 誠司	広瀬 微孝	宮本 直実	山崎 邦彦	渡辺 京子

鹿島建設・都立大OB会 日本聖公会 川越キリスト教会 福島 忠男・シゲ 細川 武・敦子

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費 1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
E-メール: jkaf@ml.infoseek.co.jp HP: iloveasiafund.com/japan/
発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也